

3月のことば 正しい心⑥ ～ 信頼

古来より先人が愛でた梅の香に、日本近代の夜明けまで^{さかのぼ}る。

150年前 最後の侍達の日本。複数の外国人の記録・証言によると「日本人は粗末な生活、身なりをしているが、礼節正しく、鞆を放置して出かけても盗まれず、貧しいが子どもに対する情愛と、真剣に働く姿・研究心に満ちている。将来恐るべし。」
としています。

かくして、その30数年後の明治中旬、その予言どおり 日本は世界の一等国となる。
つまり、富国強兵・殖産興業において「日本は信じるに値する」と世界から思われ、存在感が増した^{ゆえん}所以である。

考えてみると 人間は 恋愛から国際関係に至るまで この「信頼 信用」の獲得競争をしている訳であり・・・・

この信は「正しい心」が備わっていると認められることである。
今、私達はいざとなれば「知識や技術があるから」と^{こうまん}高慢になり ^{ふんぼ}墳墓に眠る先輩達が命がけで築いてきた「信」を自ら せつせと崩しているのではないのでしょうか。

日本に石油等の資源はありません。日本の財産は「信頼」です。

今、子ども達に（…そして大人も…）「正しい心」を認識させ、
「国の等級は、軍事力でもなく^{かね}金でもなく“信頼度”（政治 サービス 製品 その他）ですよ。」と発信し、世界をリードすべきである。

心静かに、しかし 強い信念で日本の春を夢見る。

